

多度地区小中一貫校整備事業 第5回開校準備委員会 会議概要

開催日時 令和4年6月25日(土) 10:00~12:20

開催場所 多度まちづくり拠点施設 講堂

出席委員 24名中 19名

1. あいさつ
2. 自己紹介
3. 検討体制について
4. 事業の進捗状況について

委員：多度地区にはプールがひとつもなくなる現状が、本当にいいのだろうか。十分な議論がされずに進んでいる。学校跡地についても、この場で検討していただきたい。

委員：プール、グラウンド、給食室、学童保育のことなど、最初の構想とずいぶん違ってきていると感じる。ひとつの会社に任せる契約方法について、儲けを優先する設計・建設にならないか、チェックが甘くなる可能性があるのではないかと、という心配がある。プロポーザル方式で、いい提案がなかった時にはどうするのか。いい提案かどうかをはかる基準が明らかにされていないのではないかと。

委員：決議の場があってプールが無しになったのか、委員会の合意があってこの流れになっているのか。

委員：今後、多度地区以外に小中一貫校ができたとき、他地区のプールはどうするのか。また、外部のプールを利用する場合、市内の全小中学生の利用に対応できるのか。

事務局：プールに関して、様々なご意見をいただいていた。子どもたちの安全確保と泳力向上、また現行のプールの老朽化、先生方の負担軽減のことをふまえ、さまざまな議論の場でもご指摘やご意見をいただき検討してきた結果、将来的にも維持ができる学校施設を考えていかなければならないという点から、市として、今回の学校にはプールをつくらないという判断をさせていただいた。

委員：プールの事故防止、猛暑、インストラクターの専門的指導という視点は納得できるが、なぜ義務教育で水泳が必要とされてきたのかということを知っているか。また、多度の小中一貫校の敷地内に一般公開できるプールを建設するという考えはなかったのか。

事務局：昭和30年代に起こった水難事故をきっかけに、子どもたちに泳力をつけるため、水泳授業が大切にされてきたと認識している。その頃からつくられてきたプールが、いま老朽化しており、見直しの時期にきている。

委員：多度に、一般公開の屋内プールをつくらないのは、集客が見込めないためか。

事務局：そうではない。総合教育会議でもプールについて話し合われ、天候に左右されない通年活用など、様々な観点からこのように決まってきた経過がある。この後つくられる小中一貫校も、方向性は同じである。

委員：グラウンドについてどうか、学校現場からの意見も聞きたい。

委員：行政と教育委員会とが方向性を決めるのは、良くないのではないかと。地域の意見も反映しなければならないのが、教育委員会としての立場なのではないかと。

委員：教育現場の立場として、プールの授業が始まり、屋外のプールは掃除や管理が大変である。晴

れても水温が上がらない場合もあれば、暑すぎて入れない場合もある。落ち葉等の混入や野生動物の進入など、思いがけない対応に迫られることもあった。新しい学校に同じ仕様のプールができたとしても、使えないと感じる。外部の屋内プールを利用する方が、授業確保できるだろう。今年は数年ぶりのプール使用のため、そうじを業者に依頼したが、その代金はPTAの負担であり、負担額も大きい。外部のプールを利用する場合はバスの本数を確保し、授業での使用が優先されるよう整備してほしい。グラウンドは、多少の段差がある2つのグラウンドであるほうが、中学生は部活動、小学生は遊ぶ場というように、用途を分けることができ、安全確保もしやすいのではないかと。体育館は、9年生までが一堂に集え、部活において対外的な大会が可能な広さがのぞましい。学童保育を校舎に併設するならば、ある時間以降は、学校とゾーン分けをしてほしい。セキュリティ対策をきちんとすることによって、共有可能だと思う。

委員：現場の立場として、プール指導が外部に委託となると、命を預かる教師の責任という意味では非常にありがたい。泳力向上にもプラス要素と感じる。バスの移動に要する時間の分、子どもたちの活動量が減ることをどうするか、そのようなことも併せてプールの設置の有無を考えたかった。

委員：一貫校になった時、ひとつのグラウンドでどのようにスポーツ少年団の活動していくのかが非常に懸念される。小学校跡地は使えるのか。子どもたちの活動が縮小されるようなことは避けたい。

事務局：将来的なことや授業や学校のことを考えた上で、新しい学校にはプールはつくと判断した。グラウンドについて、高低差を活かした自然豊かな学校というコンセプトもあり、今の中小のグラウンドを活用することも適当であると考えている。学童保育は、地域交流室と併せ、セキュリティ面の整備も求めていく。また、文科省から、新たな時代に対応できる学校づくりとして、民間のノウハウ、アイデアを活用して建ててもらうため、プロポーザル方式の業者選定も推奨している。デザインビルド方式への心配のご意見があったが、市の建築系の技術職員の監理のもと適正に事業をすすめる。開校の形についても、皆様のご意見を聞きながらすすめていきたいと考えている。その後の、桑名市全体の小中一貫の統合計画については、今年度から教育環境再構築プロジェクトという新たな体制で計画していく。

委員：このままだと本当に子どもたちが自慢できる学校になるのか。お金をかけないよという意図に聞こえるが、地域がのぞむことは、素晴らしい施設だと思う。スクールバスでの登校は、子どもたちが運動不足になり、登下校中の遊び時間を奪われる。

委員：施設について、諸室の数なども教えていただきたい。

事務局：諸室等の詳細については、審査中・公募前につき、明言は控えさせていただくが、これまでワークショップや教職員アンケートなどから頂いたご意見を盛り込んであるところもある。審査が通って公募となれば、公表される。その内容は、皆様にお知らせしたいと考えている。

委員：開校準備委員会で決まった決議に対して、行政側で諮って次回に報告という順序で進んでいかないと、一向に進んでいかないのではないかと。

事務局：配布した体制図にもあるように、この場合は決議機関ではなく、皆様のご意見をいただきながら教育委員会としての方向性を決めていく場であり、市が最終決定していくという形である。

委員：行政側で決まっており、全く意見が通らないことであれば言う必要もないと感じる。委員会の

合意はあった方がいい。鈴木委員長は設計やデザインの分野の方ということだが、プールが新設できないのは敷地の問題なのか。予算の範囲もあると思うが、創意工夫によって、このようなつくり方があるという例はないのか。

委員長：プールについては、20年ほど前から各地で議論がなされているが、どこもまったく同じ議論であり、老朽化、水質管理の問題、事故に関する安全性の問題、なによりもお金をかけても利用率が非常に低い、夏季に集中するという課題が上がる。工夫事例として、ガラスの屋根や昇降式の床などがあったが、それぞれ老朽化やメンテナンス面の課題があった。屋上に設置した学校もあったが、全体の流れの中では、私見ではあるが、学校にプールをつくる時代は終わったと感じる。これは、瞬間にやって来るものではなく、徐々にやって来るものである。利用率、メンテナンス、財政面も含め、多度の敷地の中にプールを設置するのは、難しい印象を受ける。

事務局：子どもたちにとってよりより教育環境になるよう、進めていきたい。

5. 議事

(1) 「多度地区小中一貫校開校準備委員会」について

- ①令和3年度の経過報告
- ②令和3年度～令和6年度のスケジュールについて
- ③令和4年度検討予定（案）について

委員：どんな学校にしていくかをあまり議論ができないまま、学校づくりが進められているのではないか。

事務局：ソフト面に関しては、教育指導部会で生活指導や教育課程などの学校づくりを進めていく。

事務局：本委員会と2つの部会で開校に向けて、スムーズに開校ができるよう、それぞれに議論いただく形になる。本委員会では、校名や校章、校歌などについてご議論いただきたい。

(2) 多度地区に新設される義務教育学校の「校名」について

- ①新しい学校の校名に関する検討（案）
- ②校名の募集要項（案）

委員：自由発想が良いのではない。

委員：多度という名まえは入れた方が良いのではないか。

委員：自由発想で公募し、最終的によりふさわしいと思うものを、協議したら良いのではないか。

委員長：自由発想の方向性での公募としたい。

以下余白